

戸村 ひとみ 議員



総合戦略に力強いスローガンを

問 旭市の市政運営の最上位計画である「旭市総合戦略」

は、現在の人口が6万4千人にも関わらず、将来人口目標が4万8千人となっている。現状よりも低いところを目指すのは目標とは言えないと思うが、目標を数字で示さなければならぬのか。

答 総合戦略策定のためのガイドラインが内閣府の地方創生推進室より示されており、それに従って数字として示している。

問 市民のアイデアを募り、老朽化した公共施設や民間の空き家などを活用して移住・定住を勧めたり、保育園や小・中学校の統廃合を見直して戦略的な少子化対策を進め、人口の転入超過を狙ってもらいたい。

現に千葉県の中でも戦略的な市政運営をして転入超過にしたまちは複数あるので、人口減少を食い止めるために、チーム旭の士気が高まるような力強いスローガンを

総合戦略に掲げるべきでは。

答 将来人口目標は減少の曲線をなるべく平らにしていこうというような目標で、高く見積もって4万8千人であり、かなり

冒険的な数字だと考えている。



第2期総合戦略冊子

「旭が一番」の取り組みは

問 旭市は「一番になれる要素の一番多いまち」だと思うので、戦略的に「旭が一番」をたくさん作って、発信してもらいたい

が、旭が一番になるための市の取り組みは。

答 誰もが住みたい、住み続けたいと感じるまちづくりについては、総合戦略に基づき取り組んでいる。特に人口減少、少子高齢化対策として、移住・定住を促進する施策の展開が必要と考える。具体的には、従来の少子化対策に関する個別事業の推進ではなく、様々な事業を一体的かつ効果的に組み合わせ、パッケージで推進する「ストップ少子化大作戦」と題した事業を実施する。

豚熱対策を

問 昨年、千葉県内5市町で豚熱(CSF)が発生し、6農場で計192頭が殺処分されたが、本市の豚熱対策について伺う。

答 市では地元猟友会に委託して、豚熱の感染要因である野生イノシシの捕獲を進めている。養豚農家は国の補助事業を活用し、防護柵や防鳥ネットを設置して対策を講じている。

問 豚熱のワクチン接種状況について伺う。

答 6か月程度で出荷される豚は生後1回の接種。6か月以上飼育する繁殖用の豚は1回目

の接種後、6か月後に2回目を接種し、その後は1年ごとに接種。

問 消毒はどのように徹底されているのか。

答 畜産農家は農場の入り口に消毒ゲートや動力噴霧器などを設置し、車両を消毒してウイルスを農場に入れないようにしている。また、農場内では手指の消

毒や靴底の消毒などを実施、農場の周囲には消石灰を散布している。

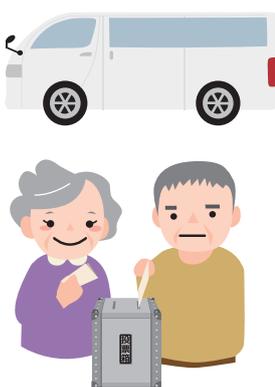
移動式投票所の導入を

問 投票所が36か所から19か所に減り、高齢者は大変不便を感じている。「移動式期日前投票所」は、投票箱や記載台を載せた車が各地域を回り投票できる仕組みであり、投票所までの足に苦

労する高齢者の投票機会を確保する手段として活用が進んでいるが、本市でも導入できないか。

答 移動投票所の開設は、二重

投票防止のための新たな期日前投票システムの導入や、通信環境整備の必要があり経費がかかる。経費の面と投票者の利便性向上を総合的に検証する必要がある。現在は予定していない。



その他の質問事項

- 新型コロナウイルス感染症対策について
- 子育て支援について

QRコードを読み取ると、質問した議員の録画映像がご覧いただけます。